

おわりに

本校の校長室には、昭和25年からの歴史を感じるハードカバーの研究紀要、数年分をまとめた本が並んでいる。一番古い紀要の最初のページを捲るとまず目に飛び込んでくるのは、当時の研究のテーマ「自主的学習の指導法」という文字である。その冒頭には、「この書は、戦後十年、身をもって経験した民主主義教育の尊い研究であり記録である。全体は「理論篇」と「実際篇」に分かれ、中身は民主主義の中核基本問題である「自主性を育てる」ことをねらいとし、理論と実践研究の両面から教育の具体的方法について克明に分かりやすく書いたものである」とある。

奇しくもこれは、本校の今年度の研究主題「考える子を育てる」副題「学ぶ楽しさを味わう授業」と時を超え重なるものである。しかし、その時代背景を考えると単に時代はくり返されるという言葉では片付けることはできない。当時の教育では、「自主性」は、前近代的な重圧のもと日本人の最も欠けている面としてとらえられていたものである。皆が同じように学び、同じように考える。それにより、上からの号令がかかることにより一糸乱れぬ動きをできる人を育てることに重点が置かれてきた。それを打ち破り、「自主的学習」を推進することは、現代の我々の想像以上に難題だったのではと推測ができる。棘の道を歩んできた先人の先見の明に心服すると同時に今回の研究について歩みの方向についても確信をもつことができた。

さらに今回の研究では、各教科の学ぶ楽しさを明らかにするために「教科論」を記載し、それに基づいて授業実践に取り組んできた。これについても本校の最初の紀要の各教科の「自主的学習」を推進するための「理論篇」と考え方を同じくするものである。

教育には、「不易」と「流行」があるが、今回の本校の研究はその「不易」の部分をもう一度見直し、「考えること」に焦点を当ててきた。それはともすれば当たり前のことでもあることをもう一度考え直すことで、新たな視点で授業を見直すことができた。それによって「学び」で大切なものとは、いかに主体的に学びに向かえるかであることを再認識することができた。「学ぶ楽しさ」という現代では不可欠な「流行」も取り入れることで研究がより実践的で先進的なものになったのではないかと自負している。

まだまだ未熟な点も多い研究ですが、授業のあり方、子どもたちの学ぶ姿、教師の指導の仕方等ご覧頂いた皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

副校長 的場 茂樹

研究同人

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

校長 吉川 一 義

副校長 的場 茂 樹

学内教頭 堀 井 洋 一

国語科	加納 篤	坂井 昇	濱名 秀晃
社会科	西 勝也	井南 亮佑	
算数科	石田 美保	服部 美雪	
理科	中前 元久	森田健太郎	岡部佐穂里
生活科	中川 好美	早川 佳奈	
音楽科	徳田 典子	西村真理子	笹谷真理子
図画工作科	齊藤江利子	中川 佑紀	
家庭科	馳 裕紀子		
体育科	島貫 由郷	出嶋志津子	
道徳	北野 美紀	太田ちはる	
英語教育	乗富 智子		
情報教育	杉森 慎一		
保健教育	吉本 貴世		

旧同人

盛一 純平 泊 和寿 北 豊

澤田 兼祐 小網 達也

研究紀要 第70集

平成28年10月 印刷発行

編集代表 吉川一義
発行所 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校
印刷所 前田印刷株式会社

©2016 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校
無断転載・複製を禁じます。